

連載

志茂田景樹

第 25 回

「よいこに読み聞かせ隊」

ことばの持つ力

隊長旅日記



氏名	志茂田 景樹 <small>しもだ かげき</small>
生年月日	1940年3月25日
出身	静岡県
身長	178センチ 体重61キロ
血液型	A型 星座 牡羊座
最終学歴	中央大学法学部
職業	絵本作家・児童書作家
肩書き	小説作家・読み聞かせ隊長 よい子に読み聞かせ隊 隊長

謎の馬車がある駅

東北新幹線七戸十和田駅に降り立ちました。講演や、読み聞かせで青森県を訪れるのは、ほぼ1年ぶりです。去年の今頃、NHKカルチャー教室の講師として八戸教室と青森教室を訪れました。

八戸教室での講演をすませ、八戸駅から新青森へ向かいましたが、その直前、八戸駅の構内に展示されていた木馬に気づいて目が点になりました。八戸に古くから伝わる八幡駒で、仙台の木ノ下駒、福島県三春の三春駒並ぶ日本三大駒の一つとして広く知られているものです。

翌日、青森教室での講演をすませたの帰途のはやぶさ車中で一眠りしましたが、巨大な八幡駒の夢を見ました。そのなかに僕が入って乗り太平洋を渡り、途中で翼が生えて天駆ける木馬としてアメリカを目指しましたが、残念ながらハワイ上空で翼がもげてワイキキの浜に不時着を余儀なくされたところで目が覚めました。

さて、この日は十和田市立深持小学校での読み聞かせ公演です。

その最寄り駅の七戸十和田には何が展示してあるだろうかという興味で探そうとしましたが、改札口に学校が頼んだタクシーの運転手さんが迎えていたので、そのままタクシーに乗り込みました。

深持小学校のある深持地区は、八甲田山の山麓に広がる田園地帯で、水稲、野菜の栽培が盛んなところですが、昨今は特にニンニクの栽培で全国に名が通っています。深持小学校は児童総数が39人と聞いていましたが、校舎の外観もモダンで、まだ築5、6年の印象でした。

「昔からの校舎は漏電で焼けたんですよ。立派なのを、という地区の要望でいい校舎が建ちました」

運転手さんの説明に頷くうちに、玄関前に到着しました。

校舎内に案内されると、中央が体育館兼多目的ホールのフロアで、その周りに回廊を巡らせ教室、職員室などが配置されていました。

吹き抜けの造りで、2階建てなのにエレベーターが2基もついていました。老人施設などに転用できる造りなのかもしれません。校長の苦米地庸子先生は、

「子供たちが39人で、先生方が10人もいて、校舎も周囲の環境も素晴らしい。学力の向上にはとてもいいですね」

という僕の質問に対し、

「英語塾も含めて塾は何もないところです。市街地までは車で20分ですが、そこまで通って習い事をする子どももいませんので」と、苦笑されました。

しかし、「もつと本好きになるお話会」と題された読み聞かせ会が始まってみると、みななびのびと成長して感受性が豊かでした。

「ぞうのこどもがみたゆめ」「まんねんくじら」「ぼんちとちりん」の3つをスライドの絵を見てもらいながら語ったのですが、物語のなかに深く入り込んだ表情の子どもが多かったです。お話の合間には子どもたちとクイズのようなやりとりを行いました。かなり高度の質問にも積極的に手を挙げてくる子どもが何人もいました。

終わって、僕のほうから児童全員に一冊ずつ著作をプレゼントしました。一人一人の氏名を入れたサイン本です。氏名を読み上げて一人一人に手渡しましたが、子どもたちの嬉しそうな顔にかえって元気をたくさんいただきました。



玄関の深持小の子どもたち

玄関ホールで見送ってくれたよいこの皆さん、ありがとう、またどこかで会おうね!

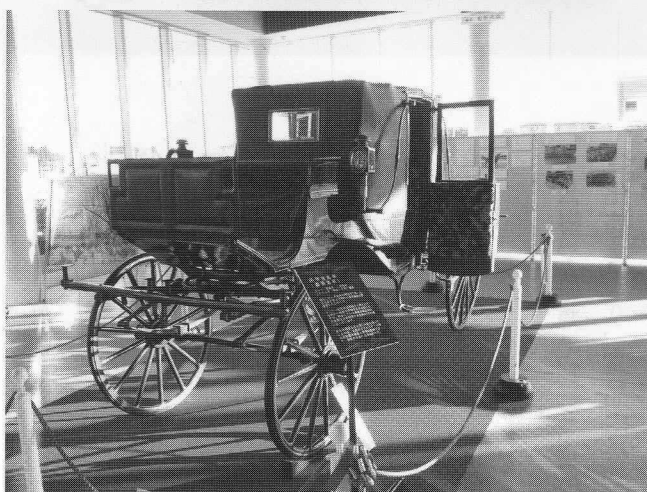
早めに七戸十和田駅に到着したので、この地らしい目立つ展示物を探しました。八戸は八幡駒、新青森はナマハゲの鬼、とそれぞれにインパクトのある展示物に満足させられたので、ここでは何か、と期待が大きくなりました。

ありましたよ。その期待を裏切らぬ大物がありました。

馬車です。クラシックです。馬はいませんが、2頭立ての馬車。まるでお伽話から抜け出てきたようでした。

大正天皇がまだ皇太子時代にこの地を巡幸した折にご乗車された馬車だということです。

当時は荒野が多かったと思いますが、のどかな田園の道を2頭立ての馬車が軽快に走る姿を思い浮かべながら、はやぶさに乗り込みました。



七戸十和田駅の馬車